

た磁場が回転によって、床屋さんのネジリンボウよろしくガスを垂直方向に加速して、鋭くしぼり出すという。

結 び

渦巻き状の銀河磁場がいくつもの銀河で発見され、確立された。また、巻きこまない渦巻き磁場の理論が成功するにおよんで、銀河の電磁流体力学的な研究は一つのエポックをむかえたといつてよい。磁場のエネルギーは星間物質のエネルギー密度や、スパイラル・アーム中のガスの重力エネルギーとほぼ同等である。このことから、磁場がアームの成因に強くかかわっているであろうことが予想される。磁場で渦状腕の成因を説明する試みは1950年代にフェルミヤ、大木・藤本・一柳らによってなされたが、その後の密度波理論の隆盛で長い間とだえていた。藤本・沢らはいま新しい観点からこの可能性にidonでいる。渦状構造の新しい展開が期待される。

銀河磁場の原初起源説は垂直磁場の存在を想起させた。銀河中心部では垂直磁場が、中心核ジェットの加速にあずかるなど、様々な活動現象に関連しているらしい。垂直磁場については観測・理論ともに、まだ端緒をついたばかりだ。今後の発展が強くのぞまれる。

日本学術会議だより No. 7 より抜粋

第14期日本学術会議会員選出のための 登録学術研究団体の概況

本会議では、現在第14期（昭和63年7月22日～昭和66年7月21日）会員（定員210人）選出のための手続きが進められているが、先頃6月末日を締切期限として、学術研究団体からの登録申請が受け付けられた。その後日本学術会議会員推薦管理会で審査が行われたが、結果は次のとおりであった。

学術研究団体の登録申請の審査結果

申請団体数……………900 団体

登録団体数……………836 団体

* 日本学術会議会員推薦管理会が登録した836団体名は「日本学術会議月報」11月号に掲載されるので、ご参照願いたい。

天体観測専門誌

天文ガイド

1月号 定価450円+税 12月5日発売/

日食・月食予報、彗星、星食、流星群…

1988年の天文現象

下保奨励賞受賞

大森茂雄さんの「小惑星の形」

3月中旬に見られる

インドネシア日食取材状況

新連載

太陽系の仲間たち

9月23日の

カラーで紹介日食特集

- 1月のスター・ウォッチング ● 1月の観測資料
- 観測ガイド ● 情報ボックス…など情報満載!!

新刊・案内

新版 星座めぐり 春夏秋冬

多くの天文ファンを生んだ名著
大好評発売中! 定価1800円。

星座案内を、香り高い文学として完成させた、故・野尻抱影先生の不朽の名著!

あいつぐ空襲の間にかい間見た星空、荒廃した戦後の澄み切った星座を、敗戦前後の人人の星に寄せる想いを込め、格調高いエッセイとともに案内した「新星座めぐり」4分冊を1冊にまとめて復刻。

- 野尻抱影著
- 四六判/360ページ
- 定価1800円



誠文堂新光社

東京都千代田区神田錦町1-5
電03(292)1221 振替東京7-128